

薰き物を奉らせたりければ、

問十五、「奉らせ」は下の a～c のうちのどれか

問十六、現代語訳

問十七、誰が誰に薰き物を奉つたのか

問十八、敬意の方向

歌の
たしなみ

心にあることにぞおぼしめしたりけると、語り伝へたる。

問十九、「おぼしめし」たのは誰

問二十、「ぞ」の結び

問二十一、「心ある」とにぞおぼしめしたりけると「現代語訳

問二十二、仁和の帝は何がしたかったのか

今まで

⑦「をみなへし・花薄」といへることを、据ゑてよめる歌、

問二十三、2つの「る」の文法的説明

問二十四、「どこに」「据ゑ」たか

問二十五、以前の秋は何がどうだったか

⑧小野の萩 見し秋に似ず成りぞ増す

は、以前に

経しだにあやなしるしけしきは

問二十六、「経しだにあなや」品詞分解と訳

絏しだにあやなしるしけしきは
問二十六、「経しだにあなや」品詞分解と訳
問二十七、「萩でさえ一年の間にこんなに目立つた変化している。」
れるのだから、まして（ ）はもっと変化している。「

萩を見ないで

萩はこんな

絏しだにあやなしるしけしきは

問二十六、「絏しだにあなや」品詞分解と訳

絏しだにあやなしるしけしきは
問二十六、「絏しだにあなや」品詞分解と訳
問二十七、「萩でさえ一年の間にこんなに目立つた変化している。」
れるのだから、まして（ ）はもっと変化している。「

なり べき

□ 識別①②

□

□ 識別①②

だに 識別・ 程度の軽いものを
あげて、程度の重いものを類推さ
せる。

これも一つの姿なり。

問二十九、何の「姿」か

問三十、次の歌に置かれているものは

よもすずし ねざめのかりほ た枕も ま袖に秋に へだてなきかぜ

よりも憂し ねたくわがせこ はては来ず なほざりにだに しばし訪ひませ

ば ける
識別①⑨⑩

a 謙譲 + 使役

b 謙譲 + 謙譲の強め

c 尊敬 + 使役